

ひとが生き生きと暮らすための情報誌

びよんど

Beyond gender

2012.3 VOL.31



特集 パートナー【ささえあい・たすけあい】
～青山さんのカナダからの手紙～ ……2～3

平成23年度ヒューマンライフシンポジウム2012…4・5 講座あらかると ……7
びよんどインタビュー ……6 さんかくデータ ……8

男女共同参画都市宣言

美しい自然に恵まれ豊かな歴史を^{はぐ}育んできた、わたしたちのまち水戸
わたしたちは、水戸のまちをさらに輝きあふれる明日へとつなぐため、「平等・創造・平和」を基本理念とし、男女がともにわかちあい、ともにつくる社会の実現に向け、水戸市を「男女共同参画都市」とすることを宣言します。

- 1 わたしたちは、ともに一人ひとりが尊重しあい、平等のもとに生き生きと暮らせるまち水戸をつくります。
- 1 わたしたちは、ともに自らの意思で社会のあらゆる分野に参画し、次の世代へとつなぐ豊かでゆとりのあるまち水戸をつくります。
- 1 わたしたちは、ともに地球環境を守り、世界へ向けて、友情と平和の輪を広げるまち水戸をつくります。

平成8年4月1日

水戸市

特集

パートナー【ささえあい・たすけあい】

～青山さんのカナダからの手紙～



小学3年生のとき、出会った青山さん夫妻。若い頃から漠然と海外で暮らしたいと思っていたお二人が、定年を10年後に控えた、50歳のとき今後の余生について話し合い、55歳でカナダに住むことを決めました。互いに公務員の仕事をこなしながら着々と準備を進める清志さんと、仕事の責任から決断をきめかねていた敦子さん。早期退職を実現し、現在カナダで日本人対象にB&B（ベッド&ブレックファースト）を運営する青山敦子さんから、メッセージをいただきました。



プリンスエドワード島に 魅せられて

2007（平成19）年3月、夫婦とも55歳で早期退職し、その年の11月にカナダへやって来ました。最初の半年は、知人の日本人女性にお世話になりながら彼女の住むハリファックスで暮らし、翌年4月からは赤毛のアンで有名な美しいプリンスエドワード島（以下PEI）へ移り住んで今に至っています。英語は来る前から少し準備していたものの、こちらの人のスピードには全くついていけず、最初の内は家から出る度に大変緊張し、顔もこわばるほどでした。もちろん夫婦でこちらのカレッジのESLコース（第2外国語学科）に通いましたが、学校の英語は実社会とは違うし、結局自分で勉強するためのきつかけ作りでしかない。徐々に生活に慣れてきてからは隣近所の人と積極的に交流するようになってきました。PEIに移って最初に借りた家は州都シャーロットタウンののどかな郊外でした。その住人に自己紹介のチラシをもって夫婦で挨拶に出かけたりしました。それが良かったのか、それからは近所の人と友達付き合いができるようになり、それはB&Bを始めるためにシャーロットタウン市内に家を買ってからも同じ手法でご近所付き合いに役立っています。PEIは、人口約14万人の小さな島で昔から皆知り合いのような生活をしていますから、一般的には他所から来た人を受け入れないように思われがちですが、基本的にフレンドリーで人が良

いので、こちらから飛び込んでいけば温かく受け入れてくれる人達です。特に日本人は、赤毛のアンを訪ねて毎年多くの観光客がPEIを訪れ島の経済に貢献していますし、車や電化製品で日本の技術力を知っていますので、尊敬されている感もあります。

消費税が15%の場所に住んでいるのですが、日常の食品には消費税がかからず医療や教育は無料等と北欧型の福祉政策がとられています。また失業者も少ないのにストレスの少ない場所と言われており、実際、国民性も穏やかかかと感じる事がしばしばです。昨年の秋にカナダポストが給与改善のストライキをカナダ全土で行ったので、1ヶ月の間、郵便物が全く届かなくなり大変驚きました。こちらの人は困った物だねと言ってはいてもさほどの怒りはなく、インターネット人口が家族単位では100%近い物がありますので、代替えが効くという感覚でしょうか、もし日本だったら大変な騒ぎになるだろうにと思っただけです。

カナダで起業!?

2010（平成22）年の夏、2年間ホテルマネージメント学科を勉強した夫が翌年4月に地元カレッジを卒業するので、その後何をしうかと夫婦で話し合いになり、何もしないでいるには時間がありすぎることもあり、カナダに来てから少し考えていたイギリスや北米で親しまれているB&B（ベッド&ブレックファースト…朝食だけを提供する宿）を始めようとの結論になりました。



友人のキャロライン夫妻とプロビンスハウス前で

月になってからは期待した以上のお客様に恵まれ、あつという間に営業終了の10月を迎えていました。

私共のB & Bは、朝食をイングリッシュフルブレックファーストで出すことに力を入れています。お部屋の清潔感も重要で、後はお客様への観光情報の提供や人としての交流です。どれをとっても我が家では夫婦二人で行っています。

それが一番お客様にとつても快適なようで、若い新婚カップルの方からは目標とする夫婦像にされ驚いた思い出もあります。

また中には、語学の短期留学を希望なさる方もあり、学校情報やサポート等も含め安心できる学習環境が得られたと大変喜ばれたりもしました。

震災、思わぬ励まし

それは、数年前に日本から下見にきた際、日本人に人気の島だから当然日本人オーナーのB & Bがあると思っていたものが実際には皆無だったので、それならば自分たちで少し貢献できないかと考えたことからでした。ということ、ゲストは日本人だけ、私たちは既にリタイアしている身なので忙しくはなりたくないから客室は2つという小さなプロジェクトをスタートさせました。

州都シャーロットタウンで市民の憩いの場所となっているビクトリアパーク側に運良く家を見つけ購入することができました。その家が100年ものだったので相当の手直しをし、開業のための役所の数種の許可を取り、ホームページとブログを宣伝媒体として、2011(平成23)年7月にオープンしました。最初は1ヶ月近くゲストがなかったものの、8

き、両隣からは別々に花束をもってお見舞いに来ていただき、いたく感銘を受けました。

PEIに住む日本人有志で千羽鶴を折りながら募金活動を行った際も、多くのカナダ人が協力してくれ、彼らからは「アンの家グリーンゲイブルズが火災にあつた時、日本人はいち早く募金活動をしてくれたのでそのお返しだ。」という言葉もあつたそうです。

私たち夫婦から見た日本は、かつての競争社会化で陰りを感じていた人々の助け合いや励まし合う姿が改めて見られて、大きな不幸の中に一筋の光明を見た気がしました。このような形で日本が再生して欲しいと強く願っています。

パートナーとは？

パートナーとしての夫婦のあり方は上述したようなことで、このように生きてきたことが人に向かって誇れるようなことかどうかは分かりません。夫婦の考

え方が完全に一致して今カナダで暮らしている訳でもありませんが、ただ1つだけ言えることは、何かの壁を感じたときにはその都度話し合い妥協もし1つの道を見出して来たことです。これからもそのやり方は変わらないと思います。

広い意味でパートナーと言えるかもしれないと思うのは、私たち夫婦のこのような生き方を理解し支えてくれる家族の存在です。そのことには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

国と国、政府と国民、女性と男性、大人と子供・・・全ての基本は人と人のパートナーシップにあるように思います。パートナーになる相手の立場に自分を置き換えてみる事が出来るかどうか、これからの社会を規定する重要な鍵となる気がします。

カナダと日本、距離はあつても今はインターネットで世界中瞬時につながっています。新たな時代のパートナーシップも生まれていますね。



平成23年度ヒューマンライフシンポジウム2012

絆でつなく女と男 ～それぞれの復興元年～

平成24年1月14日(土)水戸駅ビル6階エクセルホールにおいて、平成23年度ヒューマンライフシンポジウム2012を開催しました。例年は、9月の男女平等参画推進月間にあわせて行っていますが、今年度は東日本大震災の影響で1月の開催となりました。開場前から、たくさんの来場者が行列をつくり、会場は満員のお客様で熱気あふれるものとなりました。



基調講演

「水戸っぽ！フアイト!!」



水戸市出身の俳優渡辺裕之さんを迎え、フリーアナウンサー渡辺美奈子さんによるインタビュ形式での基調講演を行いました。

高校卒業まで水戸に住んでいた渡辺さん。実家のある下市地区のお店の話題から、奥様でもある女優の原日出子さんとの馴れ初めなど軽快なトークで、会場を沸かせてくれました。

一昨年映画化された「桜田門外ノ変」では、エキストラで撮影に参加した水戸市民について、「夜の12時半に千波公園集合。衣装は半ズボンのようなものに足袋とわらじ。現場が公園のため、厳寒にもかかわらず火気厳禁。…それでも誰一人文句を言わない。その様子に監督たちは火をつけられ、熱のこもった撮影となった」と水戸っぽ気質について話してくださいました。

また、渡辺さんといえば、栄養ドリ

トーク&トーク

「人・家族・地域・絆…私ができること」

基調講演に続き俳優渡辺裕之さん、茨城県副知事山口やちゑさん、水戸市商工会議所青年部長畑岡謙一さんの3人のパネリストとコーディネーターの渡辺美奈子さんによるトーク&トークでは、3・11の地震の時皆さんはどうしていたのか、震災後の支援や課題について感じたことをそれぞれの立場で述べていただきました。子供のときボーイスカウトなどで経験したことが、今回の震災でも生かされたという渡辺さん。県の立場として、きつちりと徹底した管理、最悪を想定した備えが必要であると、また今の便利な世の中をもう一度見直すことも必要であると山口さん。水戸商工会議所青年部として、3月に震災復興記念としてのイベントを2つ考えているという畑岡さん。そしてコーディネーターの渡辺さん

は当時茨城放送のアナウンサーとしての体験を話してくださいました。今回の震災では、避難所や仮設住宅の生活環境を改善するために女性の意見が生かされてきたという事例がありました。男性の視点と女性の視点。両方の視点が互いに融合して、より良い社会を築いていくことが、男女平等参画の基本であるとの意見が出され、盛況のうちに閉会となりました。



渡辺 美奈子さん



渡辺 裕之さん



山口 やちゑさん



畑岡 謙一さん

男女平等参画推進月間写真コンテスト入賞作品

水戸市では、平成20年度から男女平等参画推進月間に合わせて男女平等参画の実現をイメージした写真を募集しています。入賞者を9月の男女平等参画映画祭の席上で表彰し、作品の展示を行いました。



最優秀



「何でも経験 伝えたい大切なこと」
楢崎 妙子さん

優秀



「休日」
落合 美恵さん

優秀



「俺もやっぺ! 男性の地域参画」
平野 紀一郎さん

佳作



「これも美味しくできたよ! 片付けは一緒に」
大内 晴江さん

佳作



「“協”鳴 ーハウリングー」
大西 睦さん

佳作



「お手てつないで!」
西連寺 節子さん

男女平等参画社会づくり功労賞の受賞者が決まりました

水戸市では、平成18年度から「男女平等参画社会づくり功労賞」を創設し、男女平等参画社会の形成に向けて、あらゆる分野において積極的な取り組みをしている個人や団体、事業所を表彰しています。本年度も選考委員会において受賞者を決定し、9月の男女平等参画映画祭の席上で表彰式を行いました。



個人の部

大津 恵子さん (水戸市)

地域でのコミュニティ活動に積極的に取り組み、住みよい地域づくりをとおして女性の社会参画に貢献をされています。

田山 知賀子さん (水戸市)

水戸市議会初の女性副議長に就任。議員提案による水戸市男女平等参画基本条例の制定に尽力されるなど、地方議会に女性の活躍の場を広げ男女平等参画社会の実現に向け貢献されています。

団体の部

特定非営利活動法人ウィメンズネット「らいず」

茨城県で初めてドメスティック・バイオレンス被害の女性と子どもへのサポートを活動の柱にした民間組織として設立。DV被害者のための電話相談や女性シェルターを運営するなど、女性の地位向上、女性と子どもの人権の確立に寄与されています。

事業所の部

水戸ヤクルト販売株式会社

子育てしながら働く従業員を支援するために企業内保育所を設置するなど、育児制度や介護制度が充実しており、働きたい女性に対する雇用の場の提供、女性の社会進出や地域の活性化に貢献されています。

料理でつながる人とひと

元喫茶店キャントイオーナー
大貫 フミ子さん

「お料理は心の秤―はかり―で作るもの。お料理はとにかく大好き。」と優しい笑顔で答えてくださったのは、昨年10月1日に惜しまれながら閉店した喫茶店キャントイのオーナー大貫フミ子さん。大貫さんは、日立市生まれ。水戸市内で旅館を営みながら1984年に喫茶店キャントイを開店しました。



旅館経営時代には、県内の女性ではいち早くに調理師一級免許を取得し、食事提供の一切をまかなくなってきたそうです。喫茶店に専念するようになってからは、店のメニュー開発を毎日欠かさず行なってきたといいます。

モーニングサービスの提供から始めたのですが、旅館の料理は和食中心のため、洋食と言う概念のなかったフミ子さん。色々研究して料理を作ったそうです。フミ子さんの料理は全て手

作り。喫茶店で出す料理には一切冷凍物は使わず、食べてくださる方の体を大事に考えて作っていたといいます。それは、彼女が経験した3度のガンが、かなり強く影響していたようです。「1回目が49歳、2回目が2年8ヵ月後の51歳、3回目は今から6年前に頭皮にガンができたのよ。でもそのときは1日しか休まずに仕事に出たの。」と明るく答えてくれました。

お客様は、学生さんから近所の病院の医者・看護師さんそして、サラリーマンと幅広く、「ただいま。」といいながら入ってきて「いってきます。」と行って帰っていくそうです。その一人に「お帰り。」「いってらっしゃい。」とこたえていたフミ子さん。「地域のお母さんとして愛されていた。」と息子さんはいいいます。

閉店してからの毎日は、近所を一時間くらいかけ散歩することを日課としているそうです。途中、多くの人と会ってなかなか家に行きつかないそうです。それでも、キャントイを愛してくれた方たちと会って話すことは楽しいといいます。

今は、市内のNPO法人からの依頼で、イベントに参加した親子のお昼を作ったり、地元にくるばね商店街のイ

ベント「くろばね朝市」でメンチカツやコロッケ、しょうがのピール、味噌ピーナツなどを販売し、好評を得ているそうです。

「特にメンチカツはすぐに売れてしまうのよ。」

と嬉しそうに話してくれました。

いつまでも元気で頑張ろうとするフミ子さんの力の源は何かと尋ねると、「根性だと思つうの。やるぞという根性が無ければ続けることはできません。あとは笑顔と優しさです。」と力強く答えてくれました。

女性経営者としての苦勞もたくさんあったといいますが、「寝てしまえば、次の日にはケロッとして今日も頑張るぞと思つうのよ。」という、その明るさと根性で乗り越えてきたその姿は、息子さんにも大きな影響を与えているといえます。「母の生きることへの執着のすごさには、子どもであっても驚かされています。歳はとつてもその年齢でのマックスの状態で頑張っているというのはいすごいと思います。」と頼もしいお母さんを、尊敬のまなざしで息子さんは見つめます。

食は生きることの基本で、料理は心の秤で作るもの。

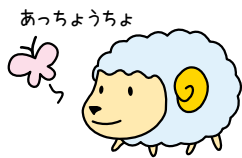
「これからも元気でずっと作って行

きたい。」とフミ子さん。人と会ってエネルギーをもらいながら、次に何をしようかと色々思索中だそうです。息子さんと親子のつながりを大切にしながら、料理を振舞っている姿がこれからもずっと見られることでしょう。



取材後記

取材中にも、しょうがのピール、しょうがの煮汁で作ったドリンク、味噌ピーナツ、きんぴらなどたくさん試食をさせていただきました。その一つ一つがとても美味しく、愛情がたっぷり込められていると感じました。女性経営者として、また、地域のお母さんとして愛されてきたフミ子さん。人として女性として自分の信念を貫かれここまで走ってきたことと思います。これからもきっとその旺盛な研究心と好奇心で、私たちの心をおなかを温かく満たしてくれることと思います。



講座 あらかると



知って得する!働く人のゼミナール

10月29日(土)、社会保険労務士の飯塚俊哉さん、女性就業支援センターの佐藤千里さん、ドコモショップひたちなか店の皆さんを講師に迎え、ゼミナール形式で働くにあたって知っておくべき基礎知識やワークライフバランス、今話題のスマートフォンの使い方などについて学びました。

飯塚先生による熱血授業では、就業規則や労働保険、賃金など、働く人や会社が守らなければならない基本的なルールについて、分かりやすく解説していただきました。



ルールを知って
気持ちよく
働きたい
ネッ!



できる男の整活セミナー

11月5日(土)、ライフスタイリストの中村信子さんを迎え、男性限定で整理収納のコツを学びました。整理収納は、「物を減らす→わける→収める」という手順を踏めば誰でも簡単にでき、「物の整理」は「心の整理」と「時間の整理」という事を教えていただきました。

参加者は、「整理や収納について参考になったが、物に対する考え方も変わった」など、“整理”について考えるきっかけができ、早速実践してみたという意見をたくさんいただきました。



ボク、
かたづけられない
羊なの!



気づいてDV支えてDV

パートナーや恋人からの暴力であるドメスティック・バイオレンス(DV)をなくすためには、当事者からだけでなく、周りの人の支援も必要になります。DVとは何故起きるのか、その実態と支援について考えるということで、11月12日(土)いはらき思春期保健協会医師の和田由香さんを講師に迎え、DV講座が開かれました。DVとは、身体的暴力以外にも、生活費を渡さないなどの社会的経済的抑圧も含まれると説明され、参加者からは、「支援者としてどのように被害者に接したらよいのかなど細かくわかった」という感想をいただきました。



DVへの
理解を広げ
ましょう
ネッ!



男の料理 基本のキ!

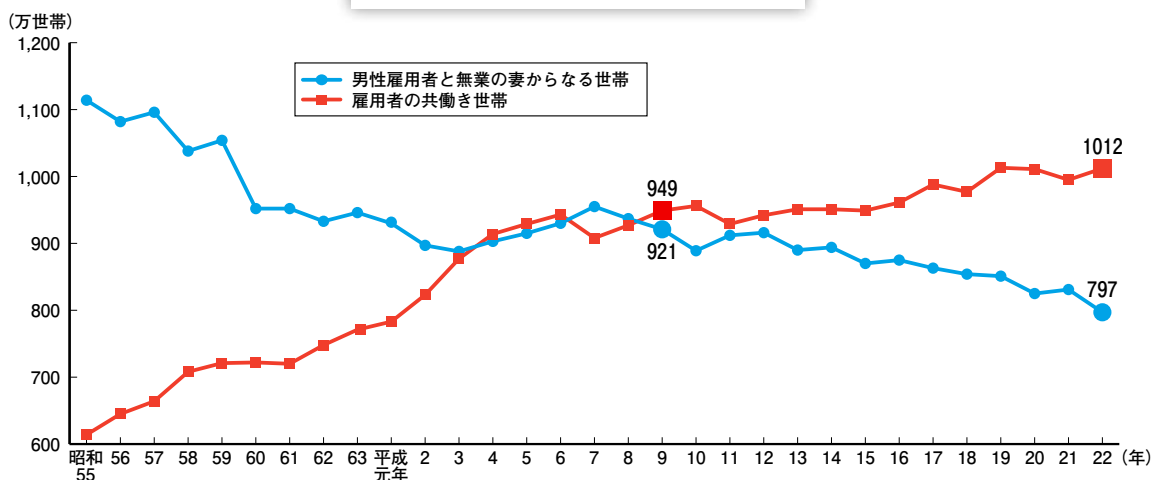
男性を対象に料理を基本から学ぼうという、男の料理基本のキ!。今回は11月19日(土)に中華編という事で、皮から作る手作り餃子・食べるラー油・ねぎと卵のチャーハンといったメニューで、羽鳥クッキングスクール理事長羽鳥達也先生の指導の下、包丁を持つのも初めてと言う30代の方から、奥様の勧めで参加したという70代の方まで、グループごとに協力しながら楽しく調理をしました。作ったものを試食しながら、「これからも自分のため家族のために調理をしてみたい」という声が多数聞かれました。



ボク、
食べるだけじゃ
ダメ?



共働き等世帯数の推移



(備考) 1. 昭和55年から平成13年は総務省「労働力調査特別調査」(各年2月。ただし、昭和55年から57年は各年3月)、14年以降は、「労働力調査(詳細集計)」(年平均)より作成。
 2. 「男性雇用者と無業の妻からなる世帯」とは、夫が非農林業雇用者で、妻が非就業者(非労働力人口及び完全失業者)の世帯。
 3. 「雇用者の共働き世帯」とは、夫婦ともに非農林業雇用者の世帯。

(参考資料) 内閣府 平成23年版男女共同参画白書より

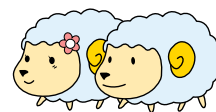
雇用をめぐる情勢は年々変化し、共働き世帯は、昭和55年以降年々増加しています。平成3年のバブル崩壊をきっかけに、雇用者の共働き世帯が男性雇用者と無業の妻からなる片働き世帯を上回り始め、平成9年以降は、完全に雇用者の共働き世帯が男性雇用者と無業の妻からなる片働き世帯を上回り、ますます共働き世帯が増加傾向にあります。平成9年は、雇用者の共働き世帯は949万世帯で、男性雇用者と無業の妻からなる世帯は921万世帯でその差は28万世帯でしたが、平成22年では、雇用者の共働き世帯は1,012万世帯、男性雇用者と無業の妻からなる世帯は797万世帯となり、その差も215万世帯と大きくなっています。

その背景として、女性の社会進出に対する意識変化や、経済情勢の変化などがあると考えられます。

男女平等参画課からのお知らせ

男女平等参画課は、東日本大震災の影響で、昨年3月からみと文化交流プラザ4階に事務所を仮移転しております。9月の男女平等推進月間以降、当課の主催講座も徐々に

再開しております。(7ページ参照)また事務局協の壁面では、男女平等に関する情報発信のため啓発資料を展示したり、登録団体の皆さんが思い思いに団体のPRなどを行っています。是非お立ち寄り下さい。



男女平等参画社会推進のために・・・

●男女平等参画推進委員会

男女平等参画社会の推進のために設置された、市民・事業者・学識経験者から構成される委員会です。総合的な施策と重要事項を調査審議します。

●男女平等参画苦情処理委員会

男女平等参画に関する苦情の申し出を、学識経験者から構成される委員会において公平・中立な立場から調査し、解決を図っていきます。

編集後記

新しい年に希望を込めて迎えた、2012年。震災の影響はまだあるけれど、1日1日前に進むヒューマンパワーは素晴らしいと感じます。今回のキーワードは“つながり”。私たちの周りには、たくさんの色々なつながりを構築して今年の干支の辰のように、上を見て歩いてゆけたなら、人としてひとまわりも、ふたまわりも大きくなれる気がします。そのための自分磨きも忘れることなく、私も周りの人たちとのつながりの糸を太く大きくしていかなきゃ(^o^)/ (Y)

発行日/平成24年3月
 編集・発行/水戸市 市長公室 男女平等参画課
 〒310-0063 水戸市五軒町1丁目2番12号
 みと文化交流プラザ4F
 TEL029-226-3161 FAX029-226-3162
 ホームページ/ <http://www.city.mito.lg.jp>
 印刷/佐藤印刷株式会社

